

生活環境を考えたの齲蝕指導とブラッシング

垣添 公恵（数野小児歯科）

患者に生活環境は千差万別である。予防指導はそれらの患者の生活環境についての深い理解がない限り成功は覚つか無い。即ち千人の患者には千種類の予防指導法があると言う事である。特に小児歯科においては環境により多大な影響を受けながら育って行く小児の特異性を考える時、それらについての深い理解無しには、その知識は伝える事が出来たとしても、一番簡単なブラッシング（毎日行う事）でさえ行為として定着するのは大変難しい事である。子供の成長にとって最も大切な事はいかに意欲的に自主的に生活する事が出来るかという事である。我々の目標もその様な生活の一部として予防法が習慣化される事である。そこで当院では子供の生活史の聴取を必ず行う事としている。それはそのまま育児史でもあるし生活環境でもある。子供及び母親の生活環境に共感的理解をする事が予防指導の第一歩である。

子供は心と体が調和し健全に育つ為に生存しているのである。そして体の健康の一部が口腔の健康なのである。生活環境が悪く意欲や協調性が良く育って無い子供に歯牙のみの健康を目指す知識や技術を母親にも子供にも安易に与えるべきでは無い。時としてそれは益々子供を抑圧の世界に追い込む事になりかねない。

子供の虫歯を火事に例えるなら、将に燃えさかっている火を消すのが予防指導の意味であろう。しかし母子共に我々のオフィスを訪れている第一の目的は火事を消しもしないで大工に修理を求めているのと同様である。修理はたやすいし母親を消防士（ブラッシングをする人）にする事もたやすい。しかしそれでは歯科的健康の主体者である子供の存在はないがしろにされてしまう。大切な事は長期の予防管理システムを通じて母親には火元（食事シュガー）を管理する責任者になってもらう事であるし子供を立派な消防士に育てる事であるし最終的には火元責任者に育てて行く事である。そのために必要な事は子供の生活環境に対する共感的理解のうえでのステップバイステップの適切なアドバイスであろう。その中から初て大工に助けを求めて来た母親を変容させ母親の責任の所在を理解させ子供を意欲的な消防士にする事が出来るのである。そしてはじめて我々も直接子供に歯科的知識を吹き込む事が出来るのである。